

シリーズ「古典医書を読む」第1弾

# 皇漢医学 を読む

漢方を習得する際にまずぶつかる壁が古典読解です。これは簡単なように見えて時間がかかります。私は国語が苦手な理系学生だったので、初学の時期に漢文や医学古文が読みにくくて苦労しました。中国語に『耳濡目染』という成語がありますが、慣れ親しむことで徐々に理解が深まっていくという意味です。古典の学習にはまずこの慣れ親しんで、古典に触れる面白さを感じることから始まります。古典を読まなくても漢方薬を処方できます。しかし、傷寒論の原文や江戸時代の漢方医の考え方を吸収して診察に望めば、処方の使い方が広がり、臨床が楽しくなってくると思います。

『皇漢医学』は代表的著作で、この一冊をマスターすれば日本漢方の概略を把握できたと言っても過言ではありません。しかし、その文章が擬古文で書かれており、また一つの文章が長く、読みにくくなっております。また引用している中国や日本の古典は難解です。そこで、この会では皇漢医学から代表的な箇所を抜粋して、拙著『補訂・皇漢医学』と原文を照らし合わせて読み進めていこうと思います。古典を読む面白さを感じて、明日の臨床を楽しくすることを目的にします。（講師：平崎能郎）

第1回 12月1日（土）17:00～19:00（2回目以降の日程は調整中です）

湯本求真先生の略歴および医学思想、日本古方派の形成  
太陽病篇（1）

第2回 太陽病篇（2） 第4回 陽明病篇

第3回 少陽病篇 第5回 陰病（太陰病、少陰病、厥陰病）

受講のお申し込みはホームページよりお受けしております

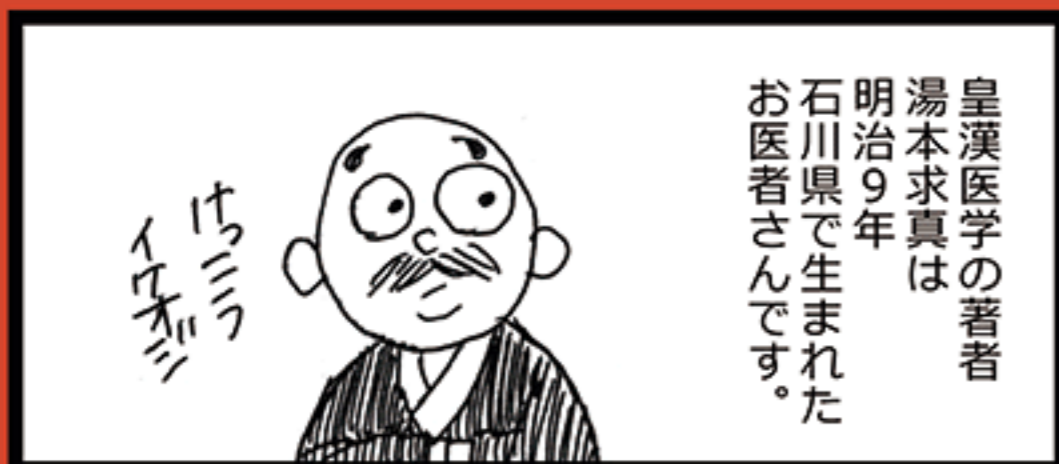
お申込みURL

<https://kampo-future.com/genbu/entry/products/detail/10>

受講料金：¥3,000 / 1回

参加資格：医師、薬剤師、学生（学生の方は受講料無料となります）

「補訂・皇漢医学」をテキストとして使用します。テキストの貸出は不可となりますので、ご購入をお願いしております。ご購入がまだの方は講座お申し込み時にお問い合わせください。



皇漢医学の著者  
湯本求真は  
明治9年  
石川県で生まれた  
お医者さんです。



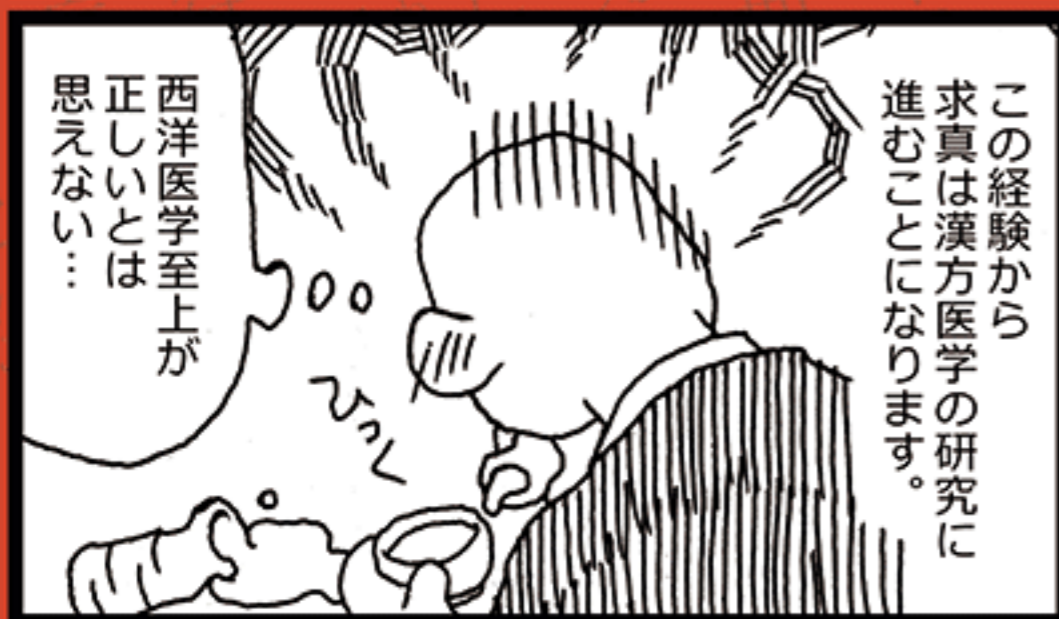
当時明治政府は  
西洋医学のみが  
正式な医学であると  
定めていたため  
これまでの  
漢方の地位は  
失墜してました。



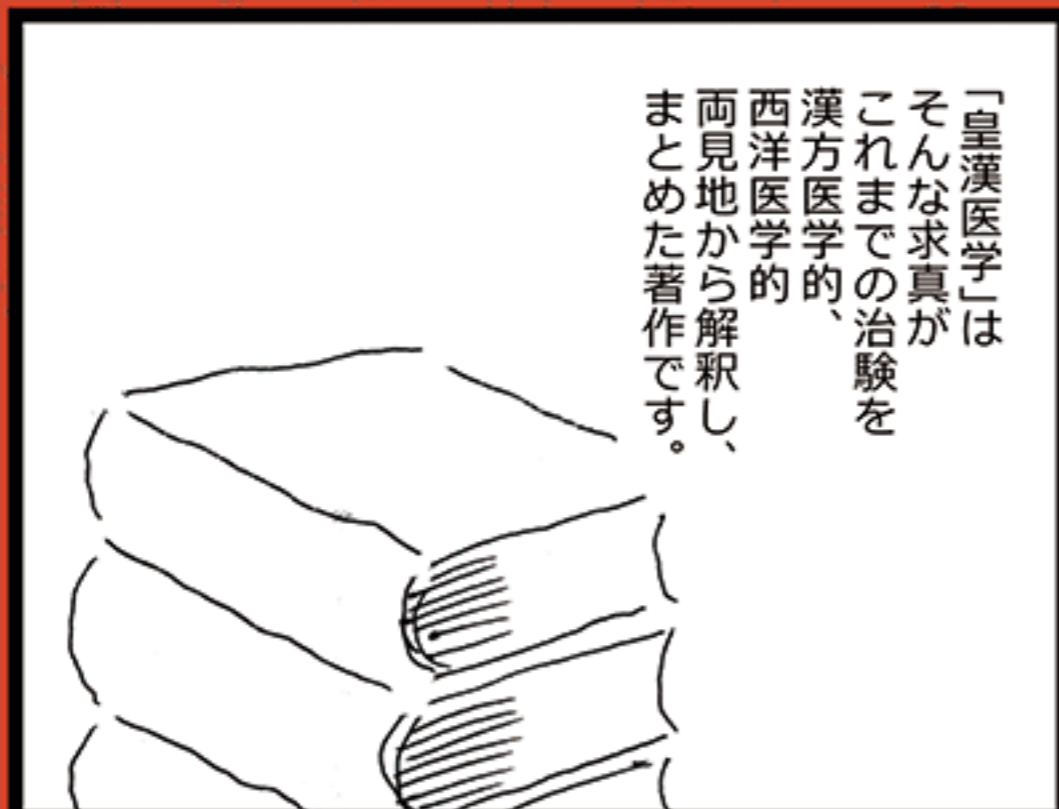
ところが明治43年、  
求真が34歳の頃  
疫病が流行し  
彼は3歳の娘と  
祖父母を失います。



私は最新の  
医療技術を  
駆使して  
治療を行った  
それでも  
娘も祖父母も  
救えなかった…



この経験から  
求真は漢方医学の研究に  
進むことになりました。



「皇漢医学」は  
そんな求真が  
これまでの治験を  
漢方医学的、  
西洋医学的、  
両見地から解釈し、  
まとめた著作です。



「皇漢医学」は  
中国、韓国でも  
翻訳出版され  
漢方の地位向上に  
大きく貢献し

今なお漢方医学の  
基礎を築いた名作と  
して読まれています。